

2011年度活動報告

2011年3月11日に発生した東日本大震災と震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故は、生協組合員と生産者に深刻な打撃をもたらしました。宮城県・福島県の共生会会員は沿岸部を中心に工場の全半壊、田畑の浸水など甚大な被害を受けました。

【沿岸部生産者の被災状況】

鈴木忠勝さん（宮城県気仙沼市唐桑）わかめ養殖設備全壊。加工場浸水

丸壽阿部商店（宮城県南三陸町歌津）自宅半壊

ヤマウチ（宮城県南三陸町志津川）工場・自宅全壊

千倉水産加工販売女川工場（宮城県女川町）工場全壊

宮鯉（宮城県女川町）工場全壊

丹野商店（宮城県石巻市）丹野社長の家族死亡1名行方不明1名

高橋徳治商店（宮城県石巻市）工場・自宅全壊

布施商店（宮城県石巻市）工場全壊

遠藤商店（宮城県石巻市）工場全壊

内海求商店（宮城県石巻市）工場・自宅浸水

木の屋石巻水産（宮城県石巻市）工場全壊

マミヤプラン（宮城県塩釜市）自宅浸水

仙台屋製麺所（宮城県塩釜市）工場・自宅浸水

趙さんの味（宮城県仙台市宮城野区）工場全壊・自宅浸水

七郷みつば会（宮城県仙台市若林区）圃場・自宅浸水

花兄園（宮城県太白区）原発事故のため福島県大熊農場が警戒区域となり立ち入り出来ず。

この他にも生産設備の一部損壊などの被害がありました。畜産生産者は、停電・断水や飼料不足による生産へのダメージを受けました。（放射能汚染による影響は別項）

停電が復旧した3月15日から共生会通信の登録アドレス宛に共生会事務局よりあいコープみやぎの状況について発信しました。3月24日には、その時点までの共生会会員の安否情報を配信しました。近県の会員は支援物資をあいコープみやぎに届けました。

被災直後はあいコープの事業活動も一時中断し、3月3回と4回は通常の供給活動ができませんでしたが、商品部と連絡の取れた生産者は通信や物流が難しい状況の中で、商品供給に全力で取り組みました。その努力の結果、あいコープみやぎでは3月5回は5品目、4月1回は24品目の供給がおこなわれました。4月2回～4回のまんま通信は商品写真を掲載したカラー印刷で4ページ160品目、5月1回～4回は生産・出荷を再開した生産者の商品を順次増やしながら毎週約400品目を供給しました。

6月以降のまんま通信では、あいぶらんど商品を軸に地場生産地場消費を堅持するとい

う方針の下で、定番品を絞り込み12ページでA～Dの4週サイクルによる企画が組まれています。

〇お見舞い活動

共生会幹事会は、3月24日から全国の会員に被災会員へのお見舞い金カンパを呼びかけました。77会員と2団体から合計3,025,000円のお見舞金が寄せられました。津波の被害が大きかった16会員には幹事が訪問しお見舞金を渡しました。その他22会員にお見舞金をお届けすることができました。お見舞い訪問の様子は共生会通信（メールマガジン）で三回にわたって報告しました。

4月27日配信共生会通信（第一回お見舞い活動報告）

共生会会員各位／東日本大震災で被災した会員へのお見舞金の呼びかけに対して4月27日までに3,005,000円がお見舞金として寄せられました。カンパしていただいた皆様に心より感謝を申し上げます。幹事会では、まず津波で工場や自宅などに被害を受けた会員を中心に16会員にお見舞金をお渡しすることにしました。

4月27日に次の4会員に鎌田副会長、青木幹事、今福幹事、事務局の豊嶋でお見舞金をお届けしました。

- *趙さんの味：キムチ（仙台市宮城野区の工場は津波で全壊、多賀城市の自宅も床上浸水）
- *マミヤプラン：酒汐干し（代表の間宮さんの自宅が津波で半壊、塩釜市）
- *仙台屋製麺所：焼きそば麺（塩釜市の工場・自宅が床上浸水）
- *花兄園：卵（福島県大熊農場が福島第一原発から20km圏内）

趙さんの味さんでは自宅の修理を自分でしながら敷地内にプレハブを設置し製造再開の準備を進めています。仙台屋製麺所さんは工場内の消毒をすませ保健所の点検も受けて学校給食への麺類の供給を4月28日から再開します。花兄園さんは鶏の飼料確保に苦労されながら宮城・岩手の農場から出荷を続けています。5月に入り、唐桑町、南三陸町、石巻市の会員にお見舞いをお届けする予定です。

2011年度共生会会費納入について／3月に宮城県、福島県以外の会員に会費納入のお願いを発送しています。宮城、福島会員のうち震災の被害が大きな皆さんには今年度の会費は免除にさせていただきます。それ以外の会員には5月以降、会費納入のお願いを順次発送しますので納入をお願い申し上げます。共生会事務局（あいコープみやぎ商品部：豊嶋）

5月6日配信共生会通信（第二回お見舞い活動報告）

共生会会員各位／5月2日、宮城県北部沿岸の被災会員へのお見舞い訪問を行ないました。参加者は鎌田副会長、西塚幹事、高橋精一幹事、事務局の豊嶋の4名。

①唐桑わかめの鈴木忠勝さん；東北道を北上し、一関ICから気仙沼を經由して気仙沼湾

の入り口にあたる唐桑町鮪立（しびたち）に入り唐桑わかめの生産者鈴木忠勝さん宅に。気仙沼湾に面している鮪立の集落は、港からすぐ立ち上がる山の斜面にかけて民家が立ち並んでいましたが、港に近い家はほぼ全壊。津波は斜面中腹の鈴木さん宅の床下まで襲いました。鈴木さん夫婦は無事でしたが加工場には浸水。鈴木さん宅の浜側の隣家は二階まで波が入ったそうです。夜には真っ暗な中を気仙沼湾の奥から火災を起こした瓦礫が外海へ流れていく様子が恐ろしかったとおっしゃっていました。3月11日までに収穫し塩蔵したわかめは無事です。

②丸壽阿部商店（生がき）；唐桑から歌津へは沿岸部の道路が寸断しているので内陸を迂回し3時間余りかかりました。林道をぬけて伊里前の海沿いに抜けると瓦礫の山。歌津バイパスの橋も流されています。途中の長須賀海水浴場は砂浜が消え海沿いの民宿もなくなっていました。高台にある丸壽阿部商店の工場は津波の被害がありませんが少し下がった場所にある自宅はこれまで津波の届かない場所といわれていたそうですが今回は二階まで浸水したそうです。副社長の阿部寿一さんは仙台と工場を往復しながら会社復興に取り組んでいます。

③宮鯉（金華さばワンフローズンフィール）；歌津から志津川を抜けて石巻に入り影山社長の自宅へ。女川町の海沿いにあった会社は津波で流されました。地震のときに職場にいた従業員の皆さんはすぐに高台に非難して無事だったそうです。

④木の屋石巻水産（小女子、缶詰）；木の屋石巻水産の木村副社長宅へ。元の自宅は被災したため、仮事務所もかねてアパートを借りて事業再開のための活動を続けています。魚市場の近くにあった会社は全壊。シンボルだった鯨の缶詰を模した大きなタンクは数百メートル先の道路まで流されています。地震の直後、自宅に家族を迎えに行った従業員の方が亡くなられたそうです。

⑤高橋徳治商店（練り製品）；高橋社長は様々な生協からの支援を受け工場の泥出しを続けています。二十数年前、共同購入会時代の組合員理事で今は首都圏で暮らしている前田さんの息子さんがボランティアで駆けつけてくれました。（彼が仙台にいたときはまだ小学生？）

⑥丹野商店（漬魚）；丹野商店の工場は万石浦の入り口で内海に面していて津波の被害はありませんでした。対岸の渡波の町はかなり津波の被害を受けています。ほんの少しの差が大きな明暗を分けてしまっています。丹野社長は家族がまだ行方不明ですが、黙々と生産再開の準備を進めてきました。

冷凍倉庫に入れていた原料魚が無事だったため6月から銀たらミリン漬、塩紅鮭切身の企画再開予定です。

この日会うことのできた被災会員のみなさんには会員の皆さんから寄せられたお見舞いカンパをお渡ししました。連休明けにも訪問活動を予定しています。

5月12日配信共生会通信

共生会会員各位／お世話様です。事務局の豊嶋です。5月11日午後、三回目のお見舞い訪問で志津川、石巻に行きました。参加者は鎌田副会長、菅原幹事、事務局の豊嶋です。

①内海求商店（焼のり）；石巻市渡波にある内海商店は自宅・工場・倉庫海辺のすぐそばにあります。高橋専務にお話を伺いました。3.11の地震では事務所のコンクリの床に亀裂が入って盛り上がり、庭では液状化で泥が吹き出たそうです。そして津波が襲い、大人の胸あたりの高さまで浸水しました。入り口の引き戸は流されていますが建物が流される事はありませんでした。職場にいた方は避難して無事でした。敷地の奥にある石倉は1メートルあまり地盤沈下していました。地震後の大潮で再び数十センチまで冠水しました。内海商店の近くにある乾海苔製造工場も地盤沈下で満潮時には浸水してしまうそうです。3月はちょうどりの買い付けの時期でした。倉庫には買い付けたばかりののりが段ボール箱で積んでありましたが床が少し高くなっていたので上のほうは難を逃れる事が出来ました。年間仕入れの三分の一くらいが残ったそうです。のりを焼く機械の目処がつけば出荷再開です。

②ヤマウチ（水産加工）；三陸道登米東和ICから国道398号線で志津川町に入りました。津波は志津川を遡上し山間の地区まで到達しています。まだ海が見えない山の中でいきなりがれきの山が現れるのは衝撃です。さらに海に近づくと津波にさらわれて町が消えた風景がひろがります。避難所の志津川中学で山内社長と待ち合わせしました。ヤマウチは二店舗、工場、自宅が流されました。港に近い工場は4階の天井まで波が来たそうです。全国の商店街ネットワークの支援で「復興市」が行なわれていますが山内社長も実行委員会の中心を担っています。地震前に高台の方に冷凍庫の建設を準備していたとのことで震災で中断していましたが5月16日にはその上棟式を行なうそうです。山内さんは復興に向けた活動に精力的に取り組んでいる様子でした。以上

○あいコープみやぎ

放射能自主測定方針説明会への参加

原発事故を受けてあいコープみやぎではいち早く供給商品の放射能汚染を自主測定する体制作り着手しました。そして生協独自検査による「スクリーニング検査（一次モニタリング）」と外部検査機関への委託検査を組み合わせた体制を作り、運用開始前の6月10日に生産者への説明会を行ないました。

6月14日配信共生会通信

1) 放射能自主測定方針説明会

6月10日に日の出町センターであいコープの自主測定方針説明会が開催されました。この説明会には宮城、福島、茨城、山形の農畜産の生産者、地場原料を使用している加工業者、51団体53名が参加しました。

コープの多々良専務から、説明された方針の骨子は次の通りです。「自主測定の目的は、

地産地消を堅持するために自主的継続的なモニタリング体制をつくることで組合員の安全を確保する責任を果さなければならないことにある。」「出来るだけ多くの品目を第一次モニタリングにかけてふるいわけをおこない、国の暫定規制値をこえる疑いのあるものは、公的検査機関による核種分析をおこなう。」「第一次モニタリング、第二次モニタリングの結果は組合員に公開する。」「主要農産物については公的検査機関での検査を計画的におこなう。」「産直産地の土壌の放射能測定を行い、実態を把握する。」「生産者自らが自主検査を行い、結果を公開することを呼びかける。」「あいコープの自主測定結果、生産者から提供された測定結果は組合員に公開する。」「6月は測定技術のトレーニング期間とし、7月17日以降、正式な測定を開始し判定や結果の公開を行なう。」説明会に参加されなかった皆さんにも生協から自主測定方針の詳細を文書でお知らせする予定です。

○総代会参加（みやぎ・ふくしま）

7月7日にあいコープみやぎの第23回総代会が仙台市青葉区ハーネル仙台において開催され共生会幹事会が参加しました。7月11日にはあいコープふくしまの第25回総代会が郡山市労働福祉会館で開催され共生会からは高橋英雄共生会会長、鎌田副会長他4名の会員が参加しました。

○被災地再生・脱原発を目指す

共生会交流集会

8月28日、29日の二日間にわたり「被災地再生・脱原発を目指す共生会交流集会」を開催しました。この企画の目的は次の二点です。

- ① 3・11大震災被災現場を訪問し、再生に取り組む被災者の思いを聞き、津波と原発事故がもたらしたものを感じ取ること。
- ② 震災後のあいコープが掲げた運動目標（「地産地消を軸とした地域再生」と「脱原発」を軸とした生活転換）への理解を深めること。

一日目の被災地訪問ツアーには15会員25名、生協役職員20名が参加し、仙台市若林区で津波に襲われたみつば会の圃場、宮城野区蒲生の趙さんの味の被災した工場、石巻市門脇で津波の惨状、石巻魚市場岸壁～魚町（加工団地）～高橋徳治商店本社工場を訪問しました。高橋英雄社長から被災地の現状を伺いました。

二日目の交流集会には25会員31名、生協役職員5名が参加しました。鎌田副会長のあいさつのあと、南相馬市に工場のあるタンポポ村牛渡社長から3・11震災直後の様子から原発事故と向き合いながら生産再開に踏み切るまでの努力、福島で事業を継続している思いを伺うことが出来ました。あいコープみやぎからは被災地支援、放射能に対するモニタリング体制と測定方針、脱原発委員会の活動について報告を受けました。

○生協祭りへの参加

あいコープみやぎの Wa! わぁ祭りは、8月29日に出展者説明会が行なわれ10月30日に仙台市宮城野区の卸商センターサンフェスタを会場として開催されました。お祭りには共生会から62会員が参加し組合員との交流を深めました。二回目の屋内開催でしたが屋内会場はワンフロアにまとめ、さらに火の使える屋外テントも併設されるなど昨年の経験をふまえた工夫が行なわれたお祭りになりました。

被災した組合員、生産者を抱える生協として震災の年ならではの祭りをとの思いがありました。復活した閑上太鼓の響きが心を打ち各ブースにもそれなりの工夫や写真の展示、子供たちからの展示などありました。組合員との涙の交流や握手、ようやく復活した商品自体にこめられた思いもありました。組合員、職員、生産者のつながりが感じられたいい祭りだったと感じました。あいコープふくしまの生協祭りは残念ながら開催が見送られました。

○放射能自主測定

(あいコープの新測定体制、原材料対策など)

食品の放射能汚染に対して、実態を把握し組合員と生産者が信頼し合えるデータを共有するために、あいコープみやぎは6月から生協内で測定する一次モニタリングと外部検査機関に委託する二次モニタリングを組み合わせた測定体制をとり自主測定活動を展開しています。11月からは東北大学の協力を得て週50検体前後の一次モニタリング(検出限界50Bq/kg)を行なっています。測定されたデータはあいコープみやぎのホームページで公開されています。

生協の自主測定方針を受けて、共生会会員は検体提供の協力を行うとともに、生産者自身の自主測定活動も広がっています。生産者からあいコープに提供された外部検査機関での測定データもあいコープのHPで公開されています。

農産協議会ではあいコープの支援のもと、産直米の検査を最重要課題として取り組み、土壌の測定活動に始まり稲穂、玄米、白米での測定を行ないました。測定結果はすべて組合員に公開され、産直米への信頼醸成がはかられました。

秋以降、加工食品の原材料としてに対する放射能モニタリングが焦点となり、組合員から原料産地や製造地についての問い合わせが増えています。原発事故後に収穫された原材料への切替時期を生協に明らかにするとともに、事前にモニタリングして組合員への情報開示に取り組んでいます。

* あいコープみやぎホームページで公開している検査結果の件数(2012年2月14日現在) 外部検査機関への委託: 137件、提供された検査結果: 190件、一次モニタリング(東北大に検査依頼): 815件

郡山市、福島市を中心としたあいコープふくしまは組合員の県外避難などで利用人数が

大幅に減少する中、組合員が元気になる様々な工夫や知恵をしぼり頑張っています。家庭や通学路の除染活動や生産者の除染へのチャレンジも様々に行なわれ、組合員の元気を支えています。

福島ほどではないとはいえ宮城でも外部被爆もあり内部被爆の軽減でありコープ組合員の利用低迷に歯止めをかける努力を試行しています。情報開示を明確に進めてきた生協と連動して生産者として被災地ゆえの元気を取り戻すべく課題を突きつけられていると思います。